

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870800505		
法人名	株式会社アヴィック		
事業所名	エクセレントホームなごみ		
所在地	茨城県龍ケ崎市川原代町875		
自己評価作成日	平成28年11月2日	評価結果市町村受理日	平成29年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JizyosyoCd=0870800505-008PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成28年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりを尊重しその人らしさを大切に介護を目指しています。また、ご家族様が何時でも気軽に来訪して頂けるような雰囲気づくりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

洒落た外観のホームである。利用者は夫々の時間の流れを大切に、管理者・職員ともに日々、その人らしく生活できるように取り組んでいる。地域密着を意識し、様々なイベント開催時(夏祭り・花火大会・運動会・芋堀・クリスマス会)に参加を呼び掛けたり、地域のイベントの敬老会・触れ合い祭り・クローズク等に参加し、地域住民と交流を重ね、お互いが参加することが楽しみなとなっている。自然災害に備えた避難方法・マニュアル作成に全職員で取り組み、利用者の安全対策に備えている。退所した家族との交流を重ね、様々な取り組みのヒントがもらいサービス向上に活かしている。管理者は、職員がやりがいを持って働きやすい職場環境作りに取り組み、良好な関係を築き上げ、調査時には管理者・職員双方より熱い想いを聞くことが出来た。その結果いい雰囲気が家族にも伝わり回数が増えており、コミュニケーションの大切さを痛感した。利用者・家族・事業所の連携を密にし、なんでも話し合える良好な関係が出来ている。職員からは落ち込んでいる時に利用者から声をかけてもらい、嬉しかったと同時に励みになったという話が聞けた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝の申し送りの最後に必ず全職員で唱和し理解・共有・実践に繋がっている 入社時の研修の際に必ず理念について説明を行い理解してもらうよう努めている 	<p>6つの理念を作成し玄関・事務所・各ユニットに掲示している。申し送りの最後に唱和し意識付けを行い、実践につなげている他、ミーティング等で管理者から話があり共有している。管理者は利用者の立場に立ったケアの提供の重要性を話しており、職員からは日頃のケアが家族にも受け入れられ、最近では訪問が多くなっているという話があった。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<ul style="list-style-type: none"> 施設イベントがある際には、ポスターの作成を行い、コミュニティセンターや商店等の掲示を協力してもらい地域住民との交流ができるよう努めている 	<p>事業所主催イベントのポスターをコミュニティセンター・商店等に貼ったり、区長から回覧してもらい広く地域住民の参加を呼びかけ(夏祭り・花火大会・運動会・芋掘り・クリスマス会)、多数の参加があり、家族はもちろん地域住民・利用者と大いに盛り上がっているという。ボランティア訪問も(オカリナ・大正琴・太鼓・津軽三味線・ライブ・浅色雲の会の歌や演奏等)多く、利用者参加型で楽しんでいる。退所された家族が散歩がてら度々来訪し交流を深め、今だから話せるのという貴重な意見を聞くことができ、今後の施設運営や職員の職業意識に対しアドバイスももらっている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 施設への来訪があった際には認知症への理解をしていただけるよう努めている 		
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 龍ヶ崎市担当者、地域住民の方々、ご家族様を交え貴重なご意見をいただきサービス向上に繋がるように努めている 	<p>家族(案内は全員に送付)・区長・民生委員・行政・事業所担当所の構成メンバーで2カ月ごとに開催している。主な議題は利用者状況・事業予定・報告・研修報告等で、席上出た意見(自然災害対策のマニュアル作成・家族に対して利用者の一時的な受け入れの可否を聞く)をサービス向上に活かしている。会議の後の昼食時には率直な意見等が出る時も多い。欠席家族には請求書と一緒に議事録を送付、職員には会議等で報告し共有している。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 龍ヶ崎市担当者との連携を図り、運営推進会議、防災訓練、イベントなどに参加していただき日頃より協力関係を築いている 	<p>担当課(社会福祉課・介護福祉課・地域包括センター)と協力関係を築き、スムーズな連携がとれている。中学生の体験学習の場として提供したり、子供110番を設置し教育委員会・児童福祉課との連携もとっている。今後は認知症サポーター養成講座を検討していきたいとの事。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・職場内研修を通して身体拘束となる行為を理解しており、身体拘束ゼロに取り組んでいる	研修を実施し身体拘束となる行為・弊害を周知し利用者の安全・安心に向けたケアの提供に取り組んでいる。利用者の混乱防止に注意をはらい、利用者のその時の状態に応じた対応を行い、気づきや様子を記録し全職員で共有している。スピーチロックは職員同士で注意している。自宅に戻りたい気持ちから外出傾向がある利用者には職員が付き添い、一緒に出掛けている。門扉は開放(市からの不審者情報が出た場合は施錠)し、玄関・各ユニットはセンサーで対応。裏手は目が届かないので行政と相談し安全上施錠した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職場内研修を行い身体的・心理的な虐待が行われないよう理解してもらい防止に努めている。また、入社時に研修を行い職員への理解、防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・職場内研修を行い権利擁護に関する制度について理解ができるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時にご利用者様・ご家族様と話し合いを行い納得理解をした上で契約の締結、解約を行っている ・制度改正や新規加算を算定する際には説明を行い同意書を必ず頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時、電話連絡時の報告に加え意見や要望等を聞き取り運営に反映している。また、ご意見箱を設置し意見が言いやすい環境作りを行っている	利用者からは日々の会話から吸い上げている。意見の言い出しにくい利用者・家族に対しアンケート実施・意見箱の設置・第3者機関名・電話番号を明示している。事業所として利用者・家族のとコミュニケーションを大切に連携を密にしたいと考えており、面会時(面会の少ない家族にも来訪してもらいたいので、取り組みを考慮中)や電話連絡時に意見や要望(外出支援の回数を増やしたり、部屋の掃除は目の届かないところも実施するように改善)をきいている。職員の退職は広報誌に載せている。職員の写真・名前を廊下に掲示し、家族・利用者には好評である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・定期的に会議を行いユニットリーダーから職員の意見・要望を聞き取り運営に反映している	利用開始前の利用者の説明をしたり、職員採用の際には職員の意見を聞いている。現場の要望等はリーダーが対応し管理者に報告しているが、管理者は積極的に職員の中に入り、意見や要望を聞き(就寝中に壁にぶついたり、転倒しない方法としてクッションや布団で対処)オープンな状態にしている。職場環境が良いという話が職員からあった。定例・全体・リーダー・ユニット会議(代表も出席し職員の思い等は周知している)で意見を聞いている。管理者との個人面談もある。年計画に外部研修表を作成し職員の力量に合わせた研修に参加し、報告書作成・ユニット会議で報告し共有している。内部研修は2日間実施し、全職員が受講できる体制となっている。新年会は親睦を深める機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・個々が担当を持ち責任を持つことにより仕事に対して責任とやりがいを持つようになっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職場内、外の研修を年間計画表をもとに実施し知識・技術の向上に努めている。職場内研修は2日間設けできるだけ多くの職員が参加できるように努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・新規事業所や他事業所に見学に行き交流を深め情報交換を行っている。また、研修で知り合った同業者との交流・情報交換を行いサービス向上に繋がるよう努めている		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ご本人様の不安や要望を傾聴し安心して頂けるような対応・説明を行いながら信頼関係を築いていけるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族様の想いを十分に時間をかけながら理解し意見や要望を言える環境作りに努めている。また、不安や要望がある際電話やお会いする時間を設け信頼関係の構築に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・サービス開始前にご本人様、ご家族様と十分な聞き取りの時間を設け必要なサービスを見極め両者了承のうえサービス提供を行うよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ご利用者様の意志や想いを聞き取り、ご本人様の出来ることを見つけだし、ご利用者様同士関係・交流が築けるよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご利用者様の情報共有ができるよう来園の際には普段の様子を伝え、ご家族様とゆっくり過ごせる環境作りを心掛けている また、定期的に写真付きのお便りを担当者の一言を載せ郵送している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族様、ご友人の方の来訪時にはゆっくりと過ごせる環境作りを心掛け、いつでも気軽に来訪出来るよう声を掛けている また、来訪出来ないご家族様には電話や手紙等で連絡が取れるよう支援している	家族・友人・知人とのなじみの関係は大切だと考えており、電話（携帯電話持参している利用者もいる）・年賀状・手紙等で連絡をとりあい、関係継続に努めている。家族の協力を得てお墓参り・美容品・居酒屋・俳句の会・ジャズライブ・外泊等に出かけている。生活の延長として新聞・乳酸飲料・ヨーグルトの購入を続けている利用者がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ご利用者様同士の関係を把握し共有スペースで過ごす際には職員が間に入り共通の話題を提供し交流の場を設け環境作りをしている。会話が困難なご利用者様に関しては寄り添いながら孤独感を感じないよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・ご利用者様、ご家族様がいつでも気軽に立ち寄れる関係を築けるよう心掛けている。現在でもイベントや運営推進会議・散歩に立ち寄るなど関係を断ち切らない取組みを心掛けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ご本人様の思いや意向を日々の関わりの中で把握できるよう努めている。困難なご利用者様に関してはご家族様との相談・ユニット会議など本人本位に対応できるよう努めている	利用者の思いは日々変わることを理解し、気づきや変化を申し送り・会議等で話し合い全職員で共有している。業務を優先するのではなく利用者の生活リズムに合わせたパターンで一日が流れているという。困難な場合は自己決定できる環境作り・表情・様子から判断し、本人本位に検討しているつもりだが、担当者が主となり、利用者本位の勉強会を開催予定。家族と利用者の思いが違う場合は利用者の想いを尊重し家族に説明している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所前の情報提供書やご家族様からの情報をもとに職員全員が共有・理解していける体制をとっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・ご利用者様の状況が把握できる体制をとっており、全職員が個々のご利用者様の担当をより細かく理解できる体制をとっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ユニット会議時モニタリングを行い、ケアプラン変更・追加の際にはご家族様との相談のもと対応している	利用者・家族の要望を聞きカンファレンスを実施し、担当者が中心となって課題とケアのあり方について話し合い、ケアマネがプランを作成し家族に説明し同意を得ている。前回の評価を受けケース記録の記入方法の勉強会を実施しケアプランと連動した記録に取り組んでいる。毎月カンファレンスでモニタリングを実施し評価から再プランにつなげている。家族・利用者の状況によっては3か月ごとの見直しを検討中。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・全職員が介護日誌やケース記録に目を通し情報の共有を行っている。課題がある際にはご家族様相談のもと都度改善に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・個々の状況を把握しご利用者様の望む暮らしに近づけるよう家族と相談の上柔軟なサービス提供を心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティアによる継続的な訪問、地域行事への参加、なごみ内の年間行事への参加など個々の状況に合わせ楽しんでいただけるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医、ご家族様との連携を行い受診の際には情報提供をし適切な医療を受けられるよう支援している。また、医師の指示のもと早期発見に努めている	協力医療機関から月2回の往診(脳神経外科・循環器)があり、体調管理に努めている。職員は利用者の体調変化がないか朝の挨拶時に確認し、変化があった場合は家族に報告し記録に(往診記録・介護支援経過表に記録・家族連絡表)残していることが確認された。かかりつけ医受診には家族が付き添い(職員の付き添いも可能)情報提供を行い、注意事項等の指示を受け、事業所・家族と共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護職とのかわりはないが、ご利用者様の日々の体調変化等・気づき等を報告相談、連絡する体制が整っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入退院時医療機関との情報提供を行い情報を共有している。退院時には現状の状態確認・注意事項の確認等を行い帰所後適切なケアが行われるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで	・入所時に事業所での可能な対応は説明をし理解・納得した上で緊急対応希望書を取り交わしている	契約時に、訪看が入っていないので看取りは行っていないことを説明し、事業所でできる可能な対応を説明して緊急対応希望書を取り交わしている。医療措置が必要となった時点で次の受け入れ先を話し合っている。看取りは職員の認識・受け入れ体制はこれからの課題であり、それに向けての方針・支援の取り組みを少しずつ確立していきたいとの事。	終末期に向けた介護支援のあり方は訪看との連携が必要かと思うが、今後も勉強会や他施設経験者から話を聞いたりし、チームで取り組むことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急マニュアルを作成し職員周知徹底するとともに速やかに対応できるよう整えている。また、消防署を招いて普通救命講習を実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回の避難訓練、図上訓練を行い全職員が避難できる方法を身につけるように努めている。また、避難訓練の際には地域住民への参加協力も呼びかけている	消防署指導・自主訓練を区長・民生委員・隣人と一緒に合同訓練を実施し(利用者もマスクをつけて参加)利用者が安全に避難できる方法を職員は身につけている。避難時のブレイカーを下すか否かの判断は全職員周知している。備蓄品は整備し、前回の評価を受け緊急持ち出し用品の整備・広域避難を周知した。自然災害についてのマニュアルを作成し来年3月に行政に提出・訓練実施予定。交通事故にあった場合の対処方法は確立されていない。	万が一のもらい事故等に対する対処方法を職員と検討し、マニュアル作成して車内に整備することが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・一人ひとりの尊厳を常に忘れず、人格・人権を常に意識し適切な関わり方、言葉づかいと対応を心掛けている	利用者へのケア提供時や声掛け時には人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。書類関係の保管場所は鍵のかかる書棚に保管している。情報開示に関する同意書を取り交わし個人情報保護に努めている。面会簿は個人ごとにまとめている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・自己決定ができる環境作りや言葉かけを行い希望に沿えるよう意見を聞くように心掛けている。表現が困難なご利用者様に関しては言動からニーズを読み取り支援できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとりのペースを理解・把握し安心して居心地の良い生活が送れるよう支援している。また、一人ひとりの希望に沿えるよう可能な限り対応するよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・清潔を心がけ季節や場所にあった衣類等のアドバイスをしている。また、必要に応じてご家族様と連絡を取り衣類の持参・購入の相談を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事前にメニュー紹介をし楽しみを持って頂いている。また、ご利用者様の希望を聞き季節の食材を取り入れたメニュー作りを心掛けている。ご利用者様が食器洗いやテーブル拭きなども行っている	調理された冷凍品を注文し配達してもらっているが、利用者の希望を聞き季節の食材を取り入れたメニュー(ごはん・汁物は調理)を提供している。利用者が一緒にキッチンに立つことは難しい状況であるが、食器洗い・拭きやテーブル拭き等を行っている。食事前にメニューの説明をし、茶碗・箸・湯呑は個人用を使用し食べることが楽しみとなる工夫をしている。食事形態は利用者の状態に合わせて(刻み)提供している。休憩時間の関係で見守り支援として各テーブルに一名の職員が付き、利用者の嚙下等を見守りながら、会話のある楽しい食事風景であった。日曜日のおやつ作りや誕生会のケーキ作りは利用者の楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人ひとりの食事・水分摂取量を記録に残し体調管理に努めている。摂取量の少ないご利用者様に関しては嗜好に合わせた物を提供し対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・一人ひとりの状態に応じた援助法で毎食後に口腔ケアを実施している。入れ歯は夜間時にお預かりさせていただき消毒を行い清潔保持に努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた支援を心掛けている。また、トイレでの排泄が断続できるように下肢筋力低下の防止に努めている	一人一人の排泄パターンを把握したり、表情・様子から声掛けを行い、トイレに誘導してトイレでの排泄や排泄の自立に努めている。夜間帯オムツ対応の利用者でも昼間はリハビリを使用し、トイレでの排泄支援を行っている。また、トイレでの排泄を継続できるように、10時の体操の時間に下肢筋力の強化に取り組んでいる。水分・運動・乳酸飲料・食材から自然排便に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分補給を十分に摂取できるよう一人ひとりの好みを配慮工夫し便秘解消や予防に努めている。また、適度な運動を行い自然排便に繋がるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴前に声かけを行い利用者様のタイミングに合わせゆっくりと入浴出来るよう配慮している。また、入浴の曜日・時間は決まっているが希望があれば入浴を行っている	入浴日は決まっているので事前に声掛けを行い、タイミングよくゆっくり入浴してもらうように(お湯の温度・入浴順番も考慮)取り組んでいる。希望があれば決められた日以外でも入浴は可能である。季節のゆず湯・しょうぶ湯を提供した時は、思い出話をしてくれる利用者がある。感染予防対策として足ふきマットは個人ごとに取り換えている。着替えの用意は利用者自身または職員と一緒にやっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・入所時にご本人様の馴染みの物を持参して頂き、ご自分の時間もゆっくり過ごせる環境作りを一番に考えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・一人ひとりの病歴・内服薬の用法について処方箋等で職員全員が情報を共有し理解し誤薬の無いよう2人体制での確認作業を行っている。体調変化があった際には直ぐに医師への相談・指示を受けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・ご利用者様、ご家族様との話を聞き柔軟なサービス提供に繋がるよう努めている また一人ひとりの個性を活かしレクリエーションやドライブ、買い物などで気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日には散歩・ドライブ等に出かけ楽しんでもらっている。また地域の行事(コロッケフェスティバル)や食事会などご家族様協力のもと外食やドライブなどにも行かれ楽しまれた	天気・体調に合わせて車いす使用の利用者も散歩・ドライブ・野菜の収穫・前庭やベンチで日光浴を行い、風を肌を感じたり、草花の開花・樹木の紅葉等から季節の移ろいを感じてもらっている。イベント外出以外に、日用品の買い物・初詣・地域のコロッケフェスティバル・外食等に出かけ、家族の協力を得て趣味の俳句の会・ジャズライブ・嗜好の居酒屋・寿司屋等出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご利用者様やご家族様からの希望がある際には本人所持もしくは事務所預かりなど、ご利用者様の希望に合わせた支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご利用者様本人が携帯電話を所持されたり希望がある時には事務所の電話を使用して頂いてる。手紙やはがきに関しては依頼があった際にはポストへの投函の支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用の空間はいつでも居心地よく過ごせるよう清潔を保ち、匂いや温度調整など気を配っている。また、季節感を感じられるよう飾り付け等に工夫を行っている	共有空間は太陽の明るい日差しがリビングの隅々まで差し込み、温かい空間でそれぞれが自由に好きな場所(広々としたソファ・和室)でのんびり過ごしている光景が見られた。家族が提供したピアノやカラオケセットは利用者の楽しいひと時を演出しているという。玄関や各ユニットにクリスマスの飾り物や利用者の書初めが目を行っている。廊下には当日勤務者の名札を掲示・職員の写真と名前を掲示してあり利用者・家族には好評である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ご利用者様同士の時間がゆっくりと過ごせるようソファを設置をしている。また一人でゆっくり過ごせるよう玄関ホール・玄関外にソファ、ベンチを設置を対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時にはご家族様に可能な限り、なじみのある家具・写真・椅子・テーブルなど安全面に配慮し持参して頂くよう説明を行っている	入り口には了解を得て、名前と写真を掲示し混乱防止に努めている。居室にはベット・ロッカー・クローゼット・冷蔵庫が設置されている。利用者の思い出の品々(テレビ・椅子・コーナー棚等)と家族の写真・趣味の園芸の雑誌・料理本・俳句の本・千羽鶴・目覚まし時計・季節の花等を飾り、居心地よく過ごせるような工夫があった。掃除は職員・利用者と一緒に毎日実施し、清潔保持に努めている。冬場の乾燥防止に備え濡れタオルをかけて対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・共有空間には障害となる物を置かないように広い空間作り、安全かつ自力支援を視野に入れ環境作りを行っている		

(別紙4(2))

事業所名: エクセレントホームなごみ

目標達成計画

作成日: 平成29年4月3日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	交通事故等に対するマニュアルが整備されていないため万が一、交通事故等があった際、どのような対応をするか一部の職員が周知していない。その為、適切な対応ができない怖れがある。	早急に職員全体と話し合いを行い交通事故発生時対応のマニュアルを作成するとともに万が一の際、どのような対応をするか再度、周知徹底しマニュアルは社用車に整備しておく。	交通事故発生時対応マニュアルを作成し全職員に周知済み。また平成29年1月社用車に交通事故発生時マニュアル作成・整備済み。	1ヶ月
2	33	終末期に向けた訪問介護との連携が現在は確立されていないため、利用者、ご家族の終末期の不安がある。	他施設経験者から話を聞いたりチームで勉強会を行いながら終末期支援の在り方について勉強し少しずつ取り組んでいく。	医療連携を進めていくため、平成29年5月訪問看護ステーションとの話し合いを実施する予定。また、平成29年10月「介護現場での看取り」についての研修会に参加する予定。	24ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。